

郡山市セーフコミュニティ事前指導審査員講評

◎審査員講評の概要（バーバー審査員が代表で講評）

① 全体を通して

- ・事前指導の審査という機会を与えてくださったことに感謝する。
- ・どの対策委員会の取り組みも、街をよくしたいという強い思いをもとに、情報収集・分析し、どのような取り組みが必要か考えて行ってきたことが伺えた。
- ・どの対策委員会も、重点課題を解決するために何が必要か検討しながら取り組みを行い、前に進んでいることが感じられた。
- ・認証からの取り組みを一度振り返り、次はどの方向に向かって進むべきか協議し、私たちに説明してくれた。
- ・そして最後に現在の状況を説明し、今後の方向性を示してくれた。そのどれもが、我々審査員の納得するものであった。
- ・コロナによって問題化されている虐待や家庭内の問題について、今後検討していかねばならないことについては、我々も同感である。

② 今後のアドバイス

<データに関するアドバイス>

- ・外傷サーベイランス委員会が、全ての対策委員会を覆うような役割で存在している。
- ・対象が重なる部分は、外傷サーベイランス委員会が対策委員会の橋渡しを担っている。
- ・原因は何だろうということ、多角的にみるのが重要である。
- ・いろいろなデータを収集し、活用していることが伺えるが、次のステップとして、収集したデータをよりよく使えないか。
- ・件数のみでなくこの事故は何歳が多いのか、何時が多いのか、より詳細な部分まで見ていくと、より効果的な取り組みに繋がる。

<取り組みに関するアドバイス>

- ・たくさんの取り組みを進めているが、更によいものとするため「どうして？」という言葉キーワードに取り組みを行ってほしい。
- ・例えば、どうして参加しないのか？というふうに、参加しないほうに焦点をあてると、何にアプローチすべきかが見えてくる。
- ・郡山市は実施しているが、テクノロジーを活用し、的確に情報を伝達していくことも重要。例えばQRコードの活用などは若者が親しみやすい方法である。情報収集や伝達方法に活用するとよい。
- ・「飲酒」「ドラッグ」が関係する外傷について、発表がなかった。それらが要因となって起こる外傷がないか確認し、現地審査で質問されてもいいようにしておくとうい。
- ・「これができなかった」より、「これができました」「これが解決しました」という発表、ネガティブよりポジティブな発表にするとよい。

③ まとめ

- ・素晴らしい取り組みを認証後継続してされてきたことに御礼申し上げる。
- ・この2年くらい、コロナ禍の中での取り組みが含まれている。それでも変わらず力強い取り組みをされてきた。あと一年、もっと素晴らしい発表になることと思う。